

臨床心理学編 第3部

～展開シリーズ～全5巻～

シリーズ監修：詫摩武俊（東京都立大学名誉教授）

① 犯罪の被害者

指導：宅摩武俊（東京都立大学名誉教授）

殺される、傷つけられる、盗まれる、だまされる、監禁されたり暴行されたりする放火される、名誉や信用をきづつけられられる等、犯罪の被害は多岐にわたり、犯罪の原因も多様である。

ストーカーという言葉はストーカー規制法といわれる法律が施行されてからまだ日が浅く、十分に知らない人もいるが、待ち伏せをしたり何度も電話をかけたり訪ねたりすることで、ときにはこれが障害や殺人にまでに発展することもある。計画的に、故意に、くり返して他人に嫌がらせを行うことがストーキングである。女性が被害者になることが多いが、男性もつけねられることもある。

この作品ではストーカーを中心に提起、どんな動機から、どのようなことを、ストーカーは行うのか、それにどう対処したらよいかを考える。

② イメージと心理療法

指導：小野けいこ（東京国際大学）

意見や意志を表明しようとするとき、ことばは重要な手段であるものの、心の深い層の表現には絵などのイメージのほうが適していると思われる。心理的困難を抱えて身動きできなくなっている人々も、描画や造型などのイメージでなら、豊かに自分を表現できることが多い。

この作品では、箱庭法、描画法など、イメージで表現される世界に寄り添いながらなされる心理療法について紹介する。

3 アイデンティティの危機と発達

指導：榎本博明（大阪大学）

青年期になると自己意識が高まり、自己のアイデンティティの探求が始まる。「自分らしさってなんだろう？」「どう生きればいいのか？」のような自問、そして納得のいく答えがなかなか見つからない事による焦りや不安が、青年を日記や思索、親友との語り合いに向かわせる。あるいは逆に自己との対面を避ける活動に駆り立てる。このようなアイデンティティをめぐる問いは、今や人生の節目節目に押し寄せる生涯の課題になっている。

4 発達臨床

指導：菅原ますみ（お茶の水女子大学）

発達臨床の現場で役に立つ子供の精神症状と問題行動に関する評価尺度を紹介する。学校や児童相談所の初期処遇での適切な判断や、医師や看護婦、ソーシャル・ワーカーなど多職種によるチーム医療に参加する際にも、用性の高い評価尺度に精通していることが必要となる。本編では、児童・思春期を対象とした面接尺度や問題行動チェックリスト、抑うつや不安などの自己記入式尺度の実施および研究場面での利用について解説する。

5 恋愛と失恋

指導：戸田広二（北海道教育大学岩見沢校）

恋愛は不思議な対人関係である。誰もがお似合いのカップルと思っていたのに突然別れてしまう、あるいは何故こんな相手に執着してしまうのか、当の本人にも分らない。何が関係を継続させるのだろうか。何故つらいだけの関係に執着してしまうのか、どんなカップルが別れやすいのか。失恋から立ち直るためにはなにをすればいいのか。失恋は辛いだけの経験なのだろうか。

この作品では、これらの問いに対する心理学からの回答を試みる。

・お問合せ・お申込みは

（映）有限会社 博映商事

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp> 【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp